

2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 12 月 30 日作成)

小委員会名	景観小委員会	主 査 名：小林敬一 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画本委員会	委員長名：小林英嗣 主 査 名：
設 置 期 間	2009 年 4 月～2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>「景観の計画的リビジョン」をテーマに、景観計画の方法論的な見直しを行い、これからの時代に必要な景観向上のための技術的、社会的プロセスを明確化し、またそのための諸条件整備を社会に訴えてゆく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題提起・計画論的課題の抽出 ・主に現代的な景観形成の課題や景観行政の役割に関する検討 ・主に関与手段・社会技術に関する検討 ・とりまとめ(提言・刊行物) 	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有(5名) *は公募による新任委員</p> <p>小林敬一(東北芸術工科大学・主査)、宮脇勝(千葉大学・幹事)、三宅諭(岩手大学・幹事)、浅野聡(三重大学)、宇於崎勝也(日本大学)、嘉名光市(大阪市立大学)、志村秀明(芝浦工業大学)、野中勝利(筑波大学)、小林史彦(金沢大学)、*岡田雅代(うつのみや市政研究センター)、*椎原晶子(NPO 法人たいとう歴史都市研究会)、*原田栄二(東北大学)、*佐藤宏亮(早稲田大学)、*阿部大輔(東京大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>景観研究史部会 WG</p> <p>これまで、小委員会において懸案となっていた景観研究の先駆者の実績や内外の景観研究の動向をレビューする作業を継続的に行うために、ワーキンググループとして景観研究史部会を設置する。</p>	
2009 年度予算	260,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回(年度内計画を含む) 第 1 回 6 月 6 日(参加人数 9 人)、第 2 回 8 月 25 日(参加人数 10 人)、第 3 回 10 月 31 日(参加人数 10 人)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 景観ルックインミニシンポジウム「蔵まち江刺の景観まちづくり」
大会研究集会	1. 「景観の計画的リビジョンーこれからの地域・都市づくりを見据えて景観を改めて考える」
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>・4 年計画の初年度にあたり、懇談会開催ならびに同資料集の作成を通じて景観の計画論に関わる基本的な課題が抽出されたことは、当初計画を概ね達成したものと考えている。</p> <p>・景観協議ならびに審査のしくみ、建築設計との関わり方、景観的規範の醸成メカニズム、地域づくりとの関わり、専門家の役割などの基本的な課題を基に、これからの時代に求められる景観行政像などを重ね、来年度以降の議論の発展を期したい。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 景観ルックインを発展させて行うとした景観政策レビューを実施できていない。</p> <p>2. ワーキンググループ活動として景観研究史部会を計画し、2 回活動方針について討議を行なったが、さらに絞り込んで具体化する必要がある。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。